

## 除草剤によるセイタカアワダチソウの防除

田中昇一・豊田正友・\*木崎原千秋  
(福岡県立農業試験場鉾害試験地・\*農試本場)

セイタカアワダチソウの防除法としては現在人力により行われているが、多大の労力を要するため大面積にまねんした地帯では対処出来ない状態である。

このため除草剤によるセイタカアワダチソウの防除法について効果を検討したので報告する。

### 1. 試験実施概要

- 1) 試験場所：場内畑地 (3.5 a)
- 2) 薬剤散布時期

処理期	年月			処理時草丈 cm
	1975	1976	1977	
早春処理	月 日 —	月 日 3. 12	月 日 4. 4	5~10
春季処理	5. 6	5. 14	5. 19	20~40
夏季処理	8. 26	9. 6	9. 7	再生株 40~60 自然株 180~230
開花期処理	10. 9	10. 20	—	

3) 散布薬剤：茎葉処理11薬剤，土壤処理4薬剤

4) 処理方法：乳剤・液剤・水和剤は高圧手動噴霧機で茎葉処理。粒剤は手散布の土壤処理

5) 稀釈水量：3~5月10ℓ/a。8~9月20ℓ/a

6) 土壤残効調査：ナタネ (10月9日不耕起播種)

### 2. 試験結果と考察

1) 効果のあった除草剤：茎葉処理で効果のあった除草剤の散布時期・散布量については第1表のとおりであるが，土壤処理剤では3kg/a以上の散布が必要で実用性はなかった。

#### 2) 散布時期

(1) 3月上旬から4月上旬の草丈伸長開始初期の処理の場合は気温が低く薬剤の作用性等の関係も考えられるが，薬剤の効果は低かった。

(2) 草丈の伸長が急速となり地下茎の伸長開始前の5月処理では高い効果が認められた。

(3) 茎が硬化し草丈が1.5~2mになった8月末から9月上旬の処理では散布量を増加する必要がある。また地上部を刈取った後の再生茎葉に処理すると効果は高い。

3) 除草剤の持続効果：土壤残留調査でノンカル 200g/a以上やベルパーは薬剤散布5ヵ月後にナタネを播種したが，出芽直後に枯死し雑草の発生もみられなかった。アシユラム，グリフォセート，ヤマクリーンMでは薬剤散布1ヵ月後の播種でも生育に支障は見られず雑草の発生が多かった (第1表参照)。

4) 散布上の注意：薬剤散布にあたっては，セイタカアワダチソウの茎葉に薬剤が十分附着するように散布すべきであるが，畑地や宅地周辺では薬剤の飛散による作物や他植物への被害に特に注意する必要がある。

第1表 主要薬剤効果一覧表

薬剤量 (a当)	処理期	早春 処理	夏期処理		開花 期処 理	ナタネ生育	
			再生	自然		処 理 5ヵ月 後 播	処 理 1ヵ月 後 播
ノンカル 水和剤	100 <sup>g</sup>	×	△	△	—	—	—
	200	△	◎	○	—	○	枯死
	300	◎	—	◎	△	◎	枯死
ヤマクリーン M 乳 剤	200 <sup>cc</sup>	×	△	○	—	—	良
	300	△	◎	◎	—	○	良
	500	○	—	—	△	—	—
アシユラム 液 剤	100 <sup>cc</sup>	△	○	△	—	—	良
	300	○	◎	◎	×	○	良
	500	◎	◎	◎	○	◎	良
グリフォセート 液 剤	100 <sup>cc</sup>	×	△	○	—	—	良
	200	△	◎	◎	—	○	良
	300	○	◎	◎	◎	○	良
ベルパー 水和剤	100 <sup>g</sup>	○	◎	◎	—	—	枯死
	200	—	◎	◎	—	◎	枯死
	300	◎	◎	◎	◎	◎	枯死

注) ◎：地下茎よりの出芽ほとんどなし，  
○：地下茎よりわずかに出芽あり，  
△：生育抑制効果は高いが地下茎まで完全に殺草せず，  
×：生育抑制効果のみ。